

低温に対する農作物の技術対策

福島県農林水産部研究技術室

福島地方气象台から「低温に関する福島県気象情報第1号」及び県内全域に低温注意報が発表されました。今後の気象情報に注意するとともに、以下により農作物の管理には十分注意して下さい。

< 低温に関する福島県気象情報第1号（本文） >

平成22年5月26日14時10分 福島地方气象台発表

福島県は、今後2週間程度、上空の強い寒気や東よりの風の影響で、気温が平年より低い状態が続く見込みです。特に今後1週間程度は、日平均気温が平年より4度前後低い日が続くでしょう。農作物の管理等に注意してください。

< 低温注意報 >

平成22年5月26日14時23分 福島地方气象台発表

(県内全域 「28日にかけて」 「以後も続く」)

【水 稲】(「農業技術情報第4号」の内容も参照してください。)

1 移植栽培

水温・地温を高めるため、活着後は浅水管理(水深3cm程度)を徹底し、分けつの発生及び初期生育の確保に努めてください。特に強風の日、田面露出しないよう注意しましょう。

除草剤の使用に当たっては、雑草の葉齢や発生草種に合わせて散布時期・薬剤選択をしてください。

2 直播栽培

湛水直播栽培では、出芽・苗立が揃うまでは草丈に応じた浅水管理(ヒタヒタ状態)としますが、その後は田面露出を避け、移植栽培に準じた浅水管理を徹底します。

【野 菜】

1 露地栽培

(1) 無理な早まき・植え付けはせず、天候の回復を待って行います。既に植え付けした場合は、べたがけ等の被覆資材等により保温に努めます。

(2) 夏秋キュウリやインゲンなどは現在定植期であり、低温時の無理な定植はその後の活着や初期生育を悪くします。定植は気温や地温が確保されてから行いましょう。

2 トンネル栽培

(1) ビニール等と不織布等の保温資材を併用し、早めに被覆し保温に努めます。強い降霜が心配される時は、更に保温マット等を重ねるようにします。

(2) ナスやピーマン等のトンネル栽培では、現在トンネル除去の時期ですが、生育の遅れや低温が続くようであれば被覆を6月上旬までとします。

3 ハウス栽培（雨よけ栽培を含む）

夕方は早めにハウスを密閉するなどして保温に努めます。日中晴れるとハウス内の温度が急激に上昇するので、換気に注意します。また、土壌が乾燥していて灌水が必要な場合は、日中の温度が高い時間に行います。

4 病害虫防除

低温・過湿で、低温性病害が発生しやすくなるので注意しましょう。

【果 樹】

主要果樹では、5～6月は新梢や果実の初期生育を確保する上で大変重要な時期となるので、着果管理や肥培管理を適切に実施してください。また、天候がぐずつくと考えられるので、病害虫防除を徹底してください。

1 着果管理対策

(1) モ モ

摘らい・摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱かった場合は早急に予備摘果を実施しましょう。また、仕上げ摘果は、果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施し、新梢の生育に応じて着果数を加減します。なお、樹勢が弱い樹は着果量も少なめとします。

本年は、果実に花カス（ガク片等の残り）の付着が目立ちますが、灰色カビ病などの病害発生につながりやすいので、摘果で丁寧に取り除くようにしてください。

凍霜害を受けた樹では、着果量が不足すると核割れの発生が心配されるので、枝葉の繁茂に応じて樹全体の着果量を確保しましょう。

(2) ナ シ

現在、予備摘果作業が中心となりますが、満開後30日以内に完了しましょう。本年は、果実の生育にバラツキが認められるため、果実の形質を良く確認しながら作業を進めましょう。

凍霜害を受けた樹では、果実の肥大や果形、サビの発生に注意して摘果を実施しましょう。なお、幼果の赤道部に発生した軽いリング状（はちまき状）のすじは、果実肥大に伴い目立たなくなります。

(3) リンゴ

実止まりが確認でき次第予備摘果を開始し、満開後30日以内に完了しましょう。結実良好な園では、予備摘果で長果枝や葉の少ない果そう及び肥大の悪い果そうの果実は全摘果を実施し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い樹では、早めに摘果を行いましょう。

凍霜害を受けた樹では、果実の肥大や果形、サビの状態に注意してできるだけ症状の軽い果実を残し、場合によっては側果を利用します。特に、被害の大きい園地では幼果の障害が明らかになるまで摘果を遅らせ、障害の少ない果実を中心に樹勢に応じた着果量を確保します。

(4) オウトウ

実止まりが明らかになってきたので、早急に摘果を実施し、適正着果としましょう。本年は、果実に花カス（花弁やガク片等の残り）の付着が目立ちますが、灰色カビ病などの病害発生につながりやすいので、摘果で丁寧に取り除くようにしてください。また、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業は計画的に実施しましょう。

2 樹勢回復対策

(1) モモ・ナシ

新梢伸長が劣り、葉色が薄いなど樹勢低下がみられる園では、早期の摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に速効性肥料による追肥(チッ素成分で2 kg/10 a程度)、または窒素成分を含む葉面散布用肥料による葉面散布を実施しましょう。

(2) リンゴ

樹勢の低下が認められる樹は早急に予備摘果を実施し、樹勢に応じた着果量として樹勢の回復を図りましょう。

3 病虫害防除上の留意点

ぐずついた天候が続くと病害の発生が懸念されるので、病虫害防除を徹底してください(詳細は、平成22年5月20日発行「果樹情報第5号」を参照)。特に、モモせん孔細菌病、ナシ黒星病の発生には十分注意してください。

(1) モモせん孔細菌病

枝病斑、葉や果実における発病部位、枯れ枝は伝染源となるため、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、今後の防除を徹底しましょう。

(2) ナシ黒星病

果叢基部病斑、罹病葉および罹病果は見つけしだい摘除し、適切に処分するとともに、今後の防除を徹底しましょう。

【花き】

1 露地栽培

露地ギクでは、低温や曇雨天などの不順天候により、花芽の発達が抑制されると栄養生長に逆戻りし、柳芽が発生しやすくなります。過剰施肥は柳芽発生を助長するので注意しましょう。

またリンドウでは、芽整理を徹底して軟弱徒長の防止に努めましょう。

2 施設栽培

トルコギキョウなどの施設栽培では、日中晴れると施設内温度が急激に上昇するので、早めの換気管理を心がけてください。また定植直後の遮光被覆は、過度の遮光とならないように注意してください。

3 病虫害防除

キクの白さび病は、13~18℃が発病適温です。また曇雨天や低温は発病を助長するため、病葉は発見したら取り除き、日当たりと風通しの確保に努めましょう。

またトルコギキョウでは、曇雨天後の強い日差しによる葉焼けや蒸れにより灰色かび病の発生が懸念されます。速やかな薬剤散布と下枝整理などの耕種的防除を行なってください。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、4月の低温と日照不足の影響で生育は遅れていましたが、現在、1番草は、平地で収穫時期、山間部ではこれから収穫時期を迎えます。

まだ、収穫を行っていない草地は、生育状況を確認した上で、梅雨入り前（例年6月10日頃）までに適期収穫を行きましょう。

収穫作業は、気象経過に注意し効率的に作業を完了しましょう。

1番草収穫後は、適切な肥培管理を実施し、2番草以降の順調な生育を促してください。

2 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは、梅雨入り前に初期生育を確保するため、播種時期を遅らせることなく、適期播種を行きましょう。

【共通】

6月上旬頃までは園芸作物を中心に凍霜害の危険性がありますので、霜注意報等の気象情報に注意し、降霜のおそれがある場合は、防霜対策を徹底してください。

以下の情報を、ホームページに掲載していますので、参照してください。

作物別凍霜害等気象災害防止対策

http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/jouhou_bousou/H22/H220325_tousougai_taisaku3.pdf